

農業について考える

令和5年新春座談会



佐藤 弘 今年から山木屋地区で農業を始めましたが、何より自分の栽培したミニトマトを食べた人に「美味しい」と言ってもらえることがとても嬉しかったし、やりがいを感じました。

吉成 私も今年から山木屋地区でミニトマトを始めたのですが、肥料の違いで野菜の味が全然違ったりするのはとても面白いと思いました。また、ミニトマトのほかに多肉植物であるビカクシダ（コウモリラン）の栽培をしています。

藤原 川俣町には佐藤さんや吉成さん以外にもミニトマト農家が数名いらつしゃいますが、農家同士の勉強会などを開催して、さらに美味しいミニトマトを目指してもらい、一緒に川俣町の農業を盛り上げていけたらと思います。

山木屋のマルシェに出店したときにお客さんが買ってくれた時は素直に嬉しかったです。



▲ビカクシダ（コウモリラン）



ナスタツシャ 私はこれまでの地域おこし協力隊としての活動の中で山木屋地区で栽培された葡萄を使用したジュースのラベルデザインや「高原の宇宙」を使用した商品の開発に取り組んできました。私ももっと川俣町の農業経済が発展するように川俣産の農産物のブランディングをメインにさらに活動



に力を入れていきたいと思っています。

また、今後は、農家独自のコミュニティを作り、販売やPRなど様々な方向から川俣町の農業にアプローチしたいと考えています。

佐藤 改 コミュニティは本当に大切ですよ。私の父は定年退職後、中山間地域ならではの風景とも言える「棚田」をなんとか後世に残したいという気持ちで、地域の方から依頼を受けて水稻を始めました。私も現在、和牛繁殖をメインに和牛を飼育していますが、将来的にはアグリツーリズムやスポーツのような「農業クラブ」みたいな仕組みができて小中学生向けに田植えや牛舎見学、収穫体験などを



震災後新規就農者が増えつつある川俣町。今回、野菜や酪農、花きなど様々な農業分野で活躍する皆さんと藤原町長による座談会を開催しました。これからの川俣町の農業はどう変わっていくのか。そしてそれぞれが思い描く川俣町と農業の未来とは――。

川俣町の農家の皆さんで協力してできた良いなと思っています。そうすれば子どもたちの中にも農家になりたいと思うような人が増え、川俣町の抱える「後継者不足」や「耕作放棄地の増加」といった問題解決への足掛かりになるかもしれないですよ。

ナスタツシヤ 農業体験というと今は定期的、または長期的な取り組みが必要な体験ツアーが多いですが、例えば私の地元であるペラルーシでは平日は農家が農産物の

栽培を行い、休日は都市部から来た人が1泊2日で農業体験を行うなどして気軽にイベント気分に参加できるような体験ツアーがあります。川俣町でも実施すれば農業へのハードルが低くなり参加者も増えるのではないかと考えます。

酒井 実際に農業という仕事に触

れたり、棚田を見ることが子どもたちも農業に興味を持つてくれたり、川俣町でこれだけ頑張っている人がいることを知ってもらえたら嬉しいですね。私はヤマキヤダーチャというグループで、ライ麦や小麦粉の生産を山木屋地区で行っています。活動が続ける中で川俣町には本当にたくさんの種類の野菜があることに気付きました。そこで、例えば川俣町産の農産物を使った食のイベントを開催できたら良いなと思いました。またイ



ベントに農家の皆さんにも参加してもらうことによつて生産者と消費者のお互いの顔が見える形で地元の農産物を食べる喜びを共有できる機会があれば地産地消にも繋がるのかなと思いました。

藤原 農業見学というのはまだそこまで浸透していないのかもしれないですね。町としても小中学校



で農業に関わる機会を増やしていきたいように協議したいと思います。

震災や少子高齢化を乗り越え町外に誇れる農業が続いているのは今まで挑戦を続けてきた農家の皆さんの力だと思っています。今回話した意見や考えを参考にしながらこれからの町政運営や地域づくりに活かしていきたいと思っています。